令和７年度　第四回札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会　議事録

１　日　時
令和８年３月10日（月）　１３時３０分から１５時３０分まで

２　出席者
⑴　委員
・　本田　修　　（元国際交流基金文化事業部長）
・　右谷　誠　　（札幌市芸術文化財団市民交流プラザ事業部　センター事業部長）
・　山本　麻友美（京都芸術センター副館長）
・　吉本　光宏　（合同会社文化コモンズ研究所代表）
・　若林　朋子　（プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院教員）
⑵　事務局
・　米森　正貴　（市民文化局文化部長）
・　犬飼　やよい（市民文化局文化部事業調整担当課長）
・　大沼　孝彰　（市民文化局文化部文化振興課調整担当係長）
・　小川　桜　　（市民文化局文化部文化振興課振興係）

３　議　題
⑴令和7年度採択事業の報告・検証
⑵令和8年度委員会の議題について
⑶その他

４　議　事
◎　開会
事務局（犬飼事業調整担当課長）の司会進行により、委員全員の出席を確認した。
⑴　令和７年度採択事業の報告・検証
事務局より、令和７年度採択事業の実施結果について説明した。
【説明概要】
- 評価検証委員会では、創造活動支援事業の評価検証を通じてアーツカウンシル機能の検討を進めていただくこととしており、単年度事業の検証にあたっては、⑴新しい創造活動への支援の有効性、⑵社会的課題の解決に向けた環境づくりのための文化芸術と社会的課題の連携可能性、⑶札幌において民間の中間支援団体へのサポートを通じて上記⑴⑵を行うことの有効性と、これらを通じたアートマネジメント人材の育成の可能性に沿って実施いただきたい。
- 2月に行われた（一社）AISプランニングによる自主報告会についても報告。

【主な意見】
- 2/23の報告会は、採択団体が昨年度に続いて自主的に実施したということ自体が前向きで素晴らしい。
- 全体を通して「ネットワーク」「自主性・自発性」「プロセス」を大切にしているのが分かった。充実していて素晴らしい活動ばかり。
- 中間支援団体としての姿勢・意識が鮮明になってきたように感じる。「採択・非採択に関わらず協力体制の構築を試みた」と報告した団体があったが、これは中間支援団体としては非常に高度なこと。
- 自分たちのポリシーを語って対話を行うという、中間支援組織の態度として

大切なところが実践できており、これは日ごろからしっかり考えているから対応できること。各中間支援団体の事業実施の中で浮かんだ課題は、団体の努力だけでは解決しないものもある。公的な政策としてどう改善していけるかが、今後の支援制度のあり方を考える上でも大切。彼らが掘り起こした課題を上手く取り入れるとともに、今中間支援を行っている、あるいはこれから行おうとしている団体との関係性を行政がどう構築していくかも重要。

⑵　令和8年度委員会の議題について

事務局より、令和8年度の検証委員会の実施予定及び議題について説明した。

【説明概要】

- 来年度の評価検証委員会では、引き続き札幌市に必要なアーツカウンシル機能についての議論いただく。また、ワーキンググループの実施を予定。
- ワーキンググループのメンバーは、市内で文化芸術活動を行っていて、政策やアーツカウンシルにも精通している重鎮の方に加えて若手の方にも入っていただく形を想定。
- ワーキンググループの実施理由は、アーツカウンシルが立ち上がることになった際、市内の文化芸術活動者に自分ごととして捉えてもらう機会としたいため
- 令和9年度以降は、ワーキンググループや検証委員会でいただいた意見と、3年間の実証実験の結果を踏まえ、必要に応じ有識者の知見を得ながら、アーツカウンシルの実装に向けた検討を行いたい。

【主な意見】

- 評価検証委員会で、全国の様々な取組を踏まえた上で、アーツカウンシルに関する必要なポイントを整理して示すことは出来ると思う。
- 評価検証委員会として、実証実験として実施している創造活動支援事業の仕組みは基本的に評価している。この仕組み自体が札幌市のアーツカウンシルの特色あるいは強みになる。
- 令和9年度も継続して事業（補助金事業）を行わないと、モチベーションが下がってしまうおそれがあるので、パイロット事業を実施できないか。
- 実証実験において、様々なリソースが不足していたり、収益性の確保などの課題が見えたことも成果であり、これを解決するためにどのような恒常的・公的支援が望ましいかを考えることとなる。
- 提言を出したあとの具体的な進め方を設定しておかないと上手くいかないのではないかと思う。
- リクルーティングが重要。最初にプログラムオフィサーとなるのが誰か、いかに初年度を動かすかが大切。
- 理想はワーキンググループのメンバーの中からコアとなる人が出てくること。そのような視点でメンバーを選ぶのが大切。
- リクルーティングに際しての要望として、依頼と同時に報酬の提示をお願いしたい。

⑶　その他

事務局より、申請段階でのアドバイスについてと、視察のガイドラインについて説明した。

【説明概要】

- R8年度については、申請段階においては事務局で可能な範囲での対応をする

にとどめたい。全体の申請レベルを向上させることは、市内の文化芸術活動の底上げの一助となり、今後の課題でもあるため、これから実装の体制を検討するにあたっては、この仕組みも含めて考えていく。

- 視察ガイドラインの有用性や改訂の必要性について、ご意見いただきたい。

【主な意見】

- 実際に視察に行って感じたが、視察と同日にヒアリングを行うのは難しいので、後日が良い。事前に採択団体にガイドラインを送っておき、ヒアリングの観点を意識しておいてもらうことは有用。

【閉会】